アーティストへの依頼

ヤマモ味噌醤油醸造元は慶応三年（1867年）の大政奉還の激動の時代に創業者・高橋茂助が醸造を開始します。七代に渡り伝統が引き継がれ、今年で151年目を迎えます。

しかしながら、創業当時の資料は一切見つかっておりません。その時代背景や歴史、風土を読み解き、味噌醤油の原材料である大豆や米、麹菌を用いて創業時の時間を取り戻すことをしています。
また、明治天皇が岩崎を訪れ、県庁所在地として機能していたのは本家の高橋七之助の町政、特に土地の耕地整理を秋田県で最も早く行ったことにより生活文化が豊かになり近代化の礎を築きます。
その功績を弊社の四代目が石碑に残し、今日に伝えられています。
この大胆な改革やそれを後世に伝える一連の世代を超えた行為そのものをアートと捉え、アーティストの滝澤氏にレジデンスのかたちで製作を依頼し、今回の展示に至りました。

七代目・高橋七之助

出生地　湯沢市（旧岩崎町）　明治5年（1872）生まれ
高橋七之助家は岩崎町随一の素封家。屋号を「高七」と称し、岩崎町はもちろん、十文字方面でも「高七」さんとして親しまれた。
岩崎町の2代目町長を務める。いかにして岩崎を住みよい豊かな町にするかを常に考え、農業改良や生活改善、勤倹貯蓄、学校建立など様々なことに取り組んだ。また、高七町長の積極的な働き掛けにより、時の内務大臣水野錬太郎が、出生地を江戸としていたが、岩崎町を郷里とするようになった。

七代目高橋七之助略年譜

年号	主な事項
明治　5年	湯沢市に生まれる
明治34年	岩崎地区300町歩（300ヘクタール）の耕地整理を秋田県知事に申請する。 大規模耕地整理では秋田県最初の計画となる。
明治36年	群会議員（大正5年6月まで）
明治38年	岩崎町農会会長
明治39年	耕地整理組合長として工事に着手（昭和6年完成）
大正　5年	産業組合法に基づく信用組合を岩崎町に創設 信用組合長

この頃、自宅の田地に染色場から糸の乾燥場もある大きな機織工場を建てた。

大正　9年　　2代目岩崎町町長（24年間務める）

大正12年　　岩崎町は昔からフジの花が有名なため、岩崎町の旗印として「町章」にフジを採り入れた図案を高七自身が作成する

大正14年　　岩崎町に独立校舎の青年学校建設

大正15年　　青年学校敷地に隣接して水野錬太郎の別邸恵沢荘建立

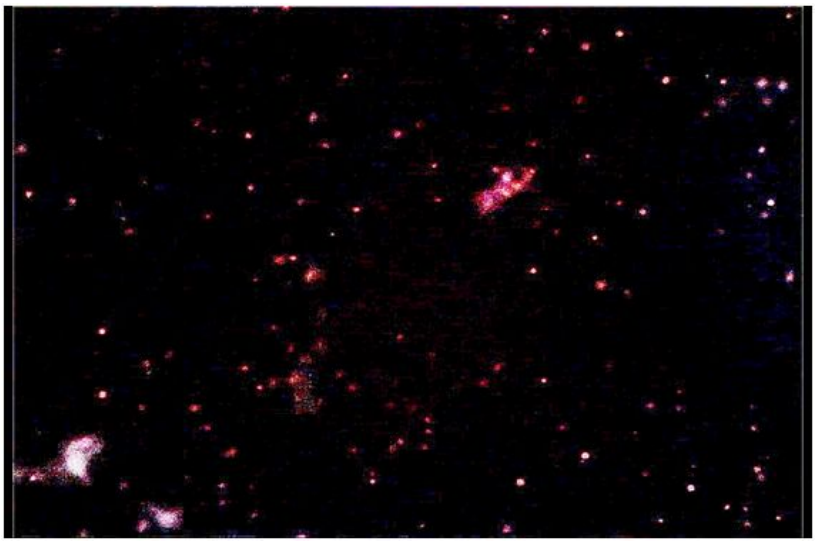
昭和10年　　青年学校校庭に水野錬太郎の胸像建立

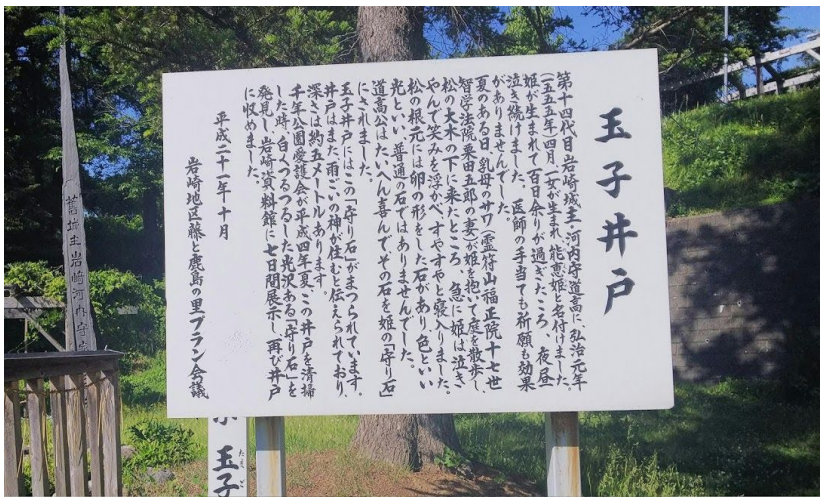
昭和15年　　「岩崎町郷土史」を出版。表紙文字は高七の筆跡。

昭和19年　　岩崎町町長職　辞任

昭和21年　　死去（75歳）

能恵姫伝説の玉子井戸の水をマイクロスコープでみる





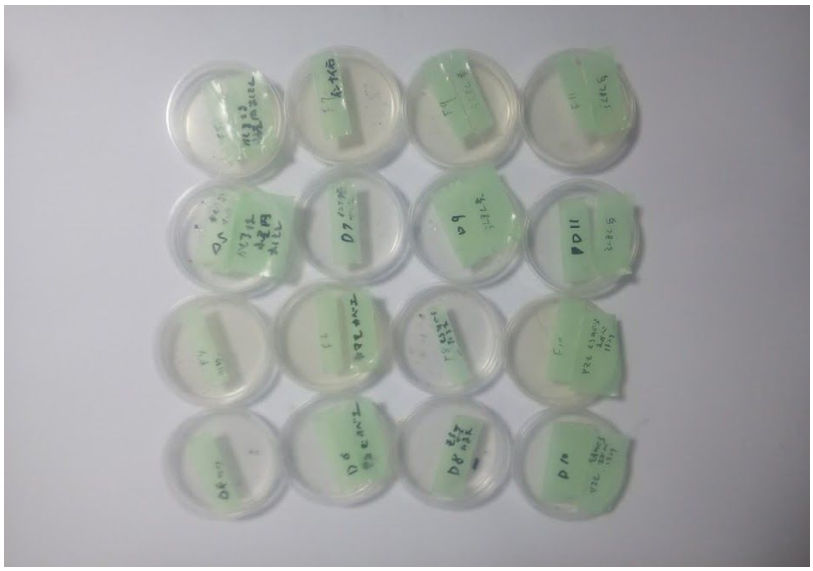
依頼を受けアーティスト滝澤は当家七代目から、当地、当家の歴史を聞き、当地の水の原点のひとつ、千年公園（旧岩崎城）の水神社や能恵姫伝説の玉子井戸でその水を映像化するところからスタートした。
使われていない象徴的な井戸、から水を汲み、顕微鏡で覗くその水中には微小な微生物の宇宙があった。

’川は今日も穏やかなり’

美しい川は、皆瀬川と呼ばれています。川には、室町時代から伝わる竜神伝説がありました。～昔むかし、皆瀬川には怒れる竜神が棲んでいた。竜神はその地の姫君を見初め、姫君が１６歳になった時、その身をさらった。姫君は人の姿を捨て、自らも大蛇となり、竜神の怒りを鎮め、その地の平和は永久に守られた～

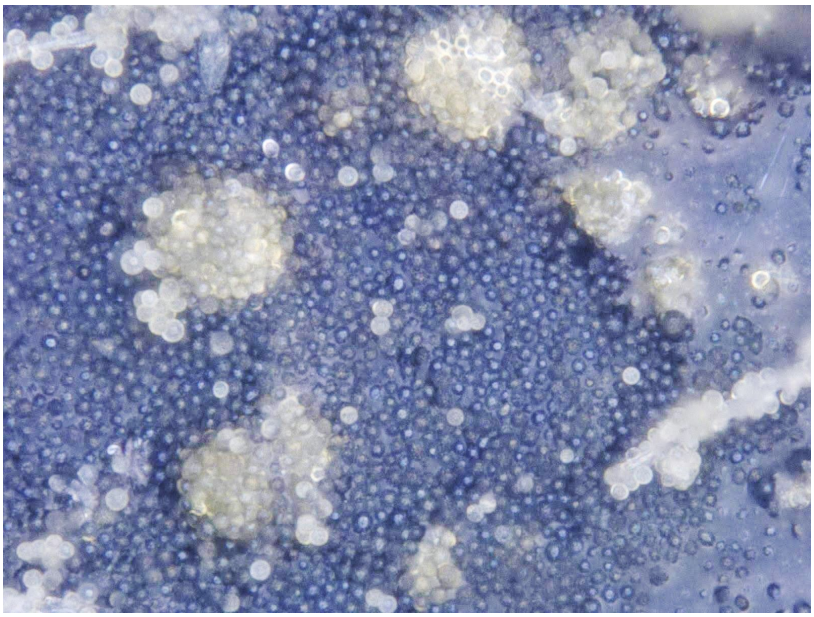
悲しい伝説の眠るこの川は今日も穏やかに流れ、高橋茂助にはじまる一族はこの川の恵みを土地の産業とし、庭園にこの地の水神とその恵みに感謝の念を込めました

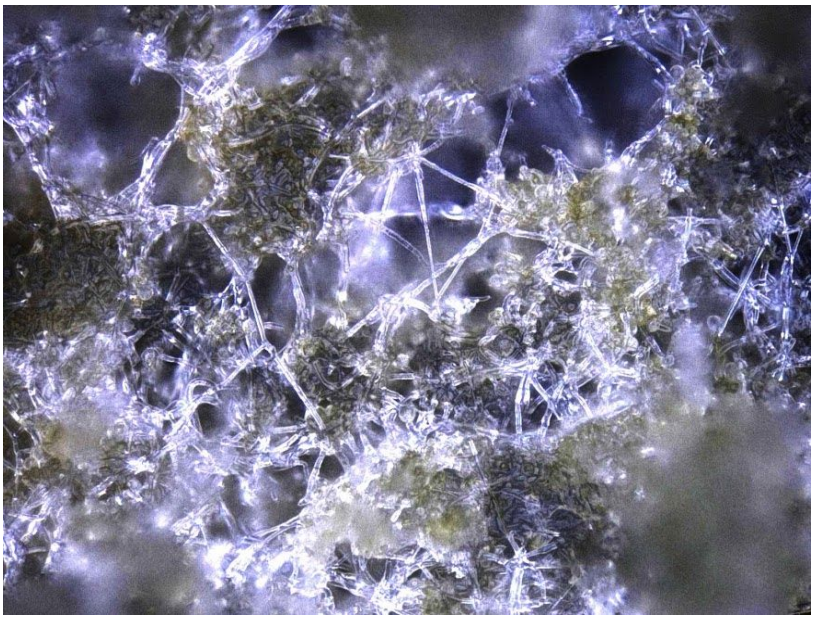
菌によるイメージの視覚化を試みる



滝澤は当家7代目の話から水神社、かしまさま、玉子井戸、皆瀬川、当家味噌蔵など岩崎各所の象徴的な場の土や砂、水などのサンプルを採取し2種の寒天培地（普通寒天培地、デキストリン寒天培地）で、目に見えないを微生物を培養することでの視覚化、また培地に物に触れさせ、物に付随する菌が物の形で視覚化されることを利用し、世界を支える菌による重要な、しかし見えずらい生態系の視覚化を試みた。
また、岩崎城址からみた岩崎地区の風景を寒天培地に小麦粉、デキストリンなどを混ぜた菌の育成条件を整えたインクで刷り、岩崎城址の土の中に置き、土中の菌がインク（培地）上にコロニーを作り、それにより岩崎の風景が浮かび上がる、イメージの菌による現像などの方法を試みた。

菌によるイメージの視覚化。黄麹、種麹による制作





滝澤は当初、各所のサンプルを培養することで微小な生態系の視覚化を試みた。例えば岩崎城址からの風景を菌の育成条件を整えたインクで刷り、透明なインク上にその場の菌のコロニーが繁殖することで岩崎の風景が現れる、菌による現像などの方法も試作した（未展示）。また、展示作品では、当家で使われる黄麹を培養し、武樋氏、日本大学さんの協力によりマイクロスコープ撮影し、得られたイメージを使い、当家で使われる麹菌を絵具に置き換えた絵画を制作した。これは当家で使われる米を粉状に粉砕し、メディウムと共に5層にわたり塗布し、乳白色の下地を作り、そこに米粉、小麦粉、寒天を煮詰め作成した麹菌が育成可能なインクを使い、黄麹の拡大イメージを湯沢市内の一の彩さんに作成いただいたシルクスクリーン版で刷り、乾燥前に黄麹胞子を振りかけ、乾燥後洗浄することで、黄麹によりイメージを浮かび上がらせた。　　この土地でしか生まれない、生きている、発酵する絵画

菌により歴史を浮かび上がらせる

滝澤は周辺の資料館、岩崎資料館や、秋田県立公文書館、図書館などでリサーチを行い、本家の高橋七之助の町政当時のイメージを浮かび上がらせるため、特に明治39年（1906）の土地の区画整理の際の写真（昭和15年発行　秋田縣岩崎町郷土誌　高橋七之助著　から引用　）や幼少期にあたる明治3年（1870）の岩崎藩時代の岩崎絵図（岩崎資料館）から引用したイメージを前記の技法で、米粉下地の上に黄麹の胞子を絵具に浮かび上がらせた。既存のイメージの引用は当地ゆかりの後の内務大臣、水野錬太郎氏が日本で初めての著作権法（明治32年）を起案したことにも由来する。

皆瀬川で紙を漉く

当家6代目が書家であること、この新しいギャラリーは改装の直前まで長らく制作の場、地域の書道教室として多くの地域の方が通った場であった。滝澤はその記憶をギャラリーに反映させる為、この部屋に積まれていた書道の反故紙を溶かし、それを主原料に皆瀬川の中に自ら浸かりながら、当家の桶を川面に浮かべ紙を漉く。
そしてそれを床に張り込み、インスタレーションとして展示した。
紙は基本的には水だけで張り込まれ、床と紙との間には当家で使われる米と大豆、この部屋の改修の際に出た土壁のかけらが挟み込まれ、
紙の一部にはこの部屋で使われたであろう墨汁と米を粉末にし、作成した半透明の白を絵具に筆を走らせた。

味噌、醤油、酒のみならず流通や水田、生活の中で、欠かせなかった地域にとって重要な意味を持つ皆瀬川、そのつながりを意識するきっかけになればと思います。

I.L.A. Galleryについて

人間の創造性や産業の未来を知るため、2017年に中北米地域を放浪します。デトロイト、ブルックリン、マイアミ、メキシコ、グアテマラ、コスタリカ。各国の都市やスラムに入り込み、創造性による様々な課題可決に学びを得ました。基幹産業が荒廃し、財政破綻したデトロイトの再生は、ゲリラ的アーティストの独善的な活動からでした。また識字率の低いグアテマラで社会を機能させていたのも、アートの存在でした。さらに、ブルックリンの都市開発チームは、このアートとデザインを機能的に融合させることによって、圧倒的都市形成をさせております。
このように究極的な状況で、産業はその回復に貢献することができません。だからこそ、それを理解し、アートに一定の態度をとることが産業の成熟を意味します。そのため、いつの時代も産業はアートを求め、認識し、融合していくのです。その想いを込めた活動が”I.L.A.（Industry Loves Art）”となります。

I.L.A.

世界に産業が生まれる前、私たちの多くは個の欲望を追求していた。
それは衣食住の根源的なところから、音や色を塗り重ねていく感覚的なところまで。
その中でいつしか生まれた集団の営みである産業は、生活や人生の主軸となった。

“Industry Loves Art” 「産業は芸術に恋をする」

私たちのアートへの恋心は淡く、現代では実り辛いものかもしれない。
それでも生活の主となった産業は、掴みきれない芸術を追い求め、共存する未来を描く。
そして有機的なアートは夏の日の恋物語ではない。
それは世界の感覚を解かし、ときに時代をひとつにし、
しかしそれは汚らわしく、だから儚く、独善的な愛、そのもの。
圧倒的に私たちは、一方的に恋をするのだ。
産業はアートに恋をしている。

私たちは、このようなリサーチを基に、「地域に伝わる歴史や風土」から「社会が危機的な状況から脱する人間の強さ」までを取り揃えたアートを味噌醤油産業に実装していきたいと考えています。創業１５０年を超える蔵元を改築し、歴史を踏ま

えた感覚をI.L.A GALLARYとして開設しました。ぜひ、国内外の感覚を新しくする
多くの皆様に、お越しいただきたいと思います。

ヤマモ味噌醤油醸造元
七代目　高橋泰

1階

黄麹胞子を培養し、そのミクロなイメージから描く

米粉下地パネル・転写・炭化米粉・メディウム・墨汁

滝澤徹也

220,000

廊下

黄麹胞子を培養し、そのミクロなイメージを黄麹胞子で浮かび上がらせる

米粉下地パネル・シルクスクリーン・種麹・インク（寒天培地・米粉・小麦粉）メディウム

滝澤徹也

220,000

①

黄麹胞子を培養し、そのミクロなイメージを黄麹胞子で浮かび上がらせる

米粉下地パネル・シルクスクリーン・種麹・インク（寒天培地・米粉・小麦粉）メディウム

滝澤徹也

220,000

②

黄麹胞子を培養し、そのミクロなイメージを黄麹胞子で浮かび上がらせる

米粉下地パネル・シルクスクリーン・種麹・インク（寒天培地・米粉・小麦粉）メディウム

滝澤徹也

220,000

③

明治3年の岩崎絵図を黄麹胞子で浮かび上がらせる

明治3年の岩崎絵図より引用

米粉下地パネル・シルクスクリーン・種麹・インク（寒天培地・米粉・小麦粉）メディウム

滝澤徹也

220,000

④

明治39年（1906）の耕地整理時の画像を黄麹胞子で浮かび上がらせる

明治39年（1906）耕地整理写真（昭和15年発行　秋田縣岩崎町郷土誌　高橋七之助著より引用
米粉下地パネル・シルクスクリーン・種麹・インク（寒天培地・米粉・小麦粉）メディウム
滝澤徹也
220,000

⑤

書道の反故紙を溶かし、皆瀬川で紙を漉く

書道反故紙・楮
滝澤徹也
非売品

⑥

雪消洞中明

□□□受賞作
書
高橋嘉彦
非売品

⑦

養福

書
□□□
非売品

⑧

プロモーション映像
篠原龍太郎